

令和5年6月19日

東部農林水産振興センター雲南農業部

標 題 第12回雲南酒米生産者振興大会が開催されました

(ダイジェスト)

令和5年6月18日(日)、雲南稲作推進協議会酒米生産部会は、酒米の高品質・安定生産に向けた意識向上を図るため、第12回雲南酒米生産者振興大会を開催し、生産者及び関係者約80名が参加しました。

新型コロナウイルスの影響により3年ぶりの開催となりましたが、良質な酒米生産に向けて、栽培のポイントを参加者全員で再確認し、更なる高品質な酒米の生産に取り組むと力強く大会宣言を採択しました。

本大会は、雲南圏域における酒米の高品質・安定生産に向けた情報共有や良質な酒米生産に対する意識向上を図ることを目的に、毎年開催されてきましたが、新型コロナウイルスの影響により、3年ぶりの開催となりました。

ヤマタノオロチ伝説で日本酒との関わりが深い島根県の中でも、雲南圏域は、酒米生産の7割を占めており、地理的にも寒暖差があることから酒米生産に適しています。また、酒米は主食用米に比べて、栽培が難しく、収量が低いことから、主食用米に比べて高値で取引されています。こうした価格の維持、向上のために、需要に見合った生産に向けた情報交換会や、需要量調査が実施されています。現在、日本酒の国内消費はコロナ禍で減少したものの、海外輸出は、13年連続増加しており、今後更なる需要の増加が期待されています。

本大会には丸山県知事も出席され、地産地消の推進や島根県育成品種「縁の舞」の需要と生産の拡大を図っていききたいと話されました。

また、島根県農業技術センター作物科長から「求められる酒米生産に向けて」について講演がありました。講演を聞いた生産者と関係機関は、酒米の品質を左右する変動要因及びそのための栽培技術についての理解を深めました。

大会宣言では、関係機関と連携を図り、年々変化する気象状況に対応していくため、栽培における基本管理を徹底すること、また、販売を起点とした米づくりを実践するため、生産者全員が需要に応じた生産に努めるとともに、生産者自らが日本酒のPRを行い、消費拡大にも積極的に取り組んでいくことを確認しました。

農業部としては、生産者組織や関係機関と連携を図り、「縁の舞」の展示ほや研修会を通じて、雲南圏域の酒米の高品質・安定生産に向けて支援していきます。



部会長による挨拶